



せいめい

清明（4日）… 園庭の花が鮮やかな彩りを見せます …

都会でも、道端に咲く可憐な花などと出会う機会はたくさんあります。港区は意外と自然が豊かです。勤務する園の自然や季節の移ろいを「二十四節気」に合わせてお知らせし続け、すでに15年近くになります。身近な自然の変化に気付く心は、子どもの心のサインに気付く感性を磨くことにもなると思い、続けているコラムです。「青南の二十四節気」も4年目を迎えます。この小さなコラムが、皆さんの身近な自然の変化に思いを寄せるきっかけになれば幸いです。

<虹始見 にじはじめてあらわる（4月14日～18日）>

清明の末候は「虹始見」です。春が深くなるにつれて、空気が潤ってきて虹が見られるようになるのだそうです。

自然の中には、虹や雲など、空を見上げることで気付くものが多いです。今、世界中がづらい状況にあり、気持ちまで下向きになりがちです。しかし、明けない夜はありません。子どもは私たち大人の言動をよく見えています。私たちが発する言葉を子どもたちはちゃんと聞いています。前向きな言葉を発することで、笑顔の答えが返ってくるようにしたいですね。



こんなところにも新しい命が・・・

園庭から職員室に上がる踏み台の隙間にかわいい赤ちゃんがいました。どこから来た、誰の赤ちゃんでしょうか？葉っぱの形をよく見てみると分かるかも・・・

<たんぽぽの不思議 その2>

前号「鴻雁北」で、たんぽぽの不思議をご紹介しました。園舎西側のたんぽぽが、茎をグリーンと伸ばしていた目的は「命」をつなぐことです。綿毛の下には種があり、綿毛の部分は風を受けるパラシュートの役目を果たします。花が咲き終わって種が熟し始めると、なるべくたくさん種を飛ばそうと茎を伸ばすのだそうです。たんぽぽが子孫を残していくために考え出した作戦なのです。私も現場で気付き、不思議に思って、子どもたちと一緒に触って観察して、図鑑で調べて得た知識です。そして、種の不思議や知恵は、身近なところにもまだまだたくさんありますよ。



↑ぶうちゃんと一緒にたんぽぽの茎で遊んでみました。茎をちょっと裂いてみると、くるりと先が丸まって、何かができそうです。草花遊びって楽しいよ。

← キラキラドアに上がっていく西側の階段下のたんぽぽは、こんなに背の高くなっています。30cmどころではありません！不思議だね！？